
ライク

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ライク

【Nコード】
N3651B

【作者名】
並盛りライス

【あらすじ】
私の想いは最後まで私の中に秘めた「ライク」でしかない。好意が愛情に変わる前に私は、この街を去る。

片付いた部屋の窓から見えるのは、引っ越しトラックの去った後の煙だけ。

冬の準備をし終わった庭の栗の木は、ちゅうぶらりんな私の心にサヨナラを言うように手を振った。

カーキ色のトランクには、身の周りの小物や、貴重品が入っていて重い。

たくさん積みすぎた思い出の重さはこんなもんじゃないだろうけど、それよりも、もっと心残りの事があった。

アイツに想いを告げないでいくこと。

引っ越しの事は、前から決まっていた事だったし、お母さんは早く言っちゃいなさいって言うし。

結局、いつも通りの毎日から一歩進む事ができずに、ズルズルと今日まで生きてきた。

アイツは、良いヤツだけど器用じゃないし、時々すごくカッコいい事も言ったりする。

今日まで引き延ばしてきた私の想いが、急速に胸の奥で騒ぎ出す。去り際に後味の悪い告白りするなんて、迷惑以外の何でもない。ずっと好きでした、が遠距離恋愛に発展するには遅すぎたのだ。

時間もチャンスも、たくさんあった。でも、私が告白しなかった事実は事実であり、これからも事実のままなんだろう。

そんな事を、ぼんやりと考えていると、ケータイが鳴った。

「もしもし、お姉ちゃん？新しいお家に着いたよお、荷物は、まだ届いてないけど、結構広いよ」

「なんだ、海鈴か。お父さんは？」

「なんか、挨拶周りのついでに、引っ越し蕎麦買ってくるってさ」

「引っ越し蕎麦？へえ、お姉ちゃんの分も残しといてよ」

「うん、僕の部屋もあるんだよ、お姉ちゃんの部屋と別にね」

「そう、良かったね。一人で寝れるの？」

「……今日は、お父さんと寝る」

「おいおい」

「アヤちゃん来たあ？」

「ん？アヤちゃん？来てないけど……」

「来たら、『大好き』って言つといてえ、あとケンタにも……」

「まあ、そういうのは自分で言いなよ」

「あ、お父さん帰ってきた。じゃあ切るね」

「うん」

受話器の向こうで、ガチャっという音がした。

海鈴の『好き』とは違うのかもしれないけど、平気で『大好き』

なんて言えるのは羨ましい。

私だつてアイツが『好き』っていう想いは一緒に、ただ言葉にすることができないだけなんだけど。

そろそろ本当に家を出ないとヤバイ時間だ。

呼んでおいたタクシーが家の前に静かに停まった。この窓からもよく見える。

玄関の鍵を閉めて、家を出ると郵便受けに、一通の手紙が入っているのに気付く。

無造作なようで、丁寧に折り畳まれた手紙は、海鈴宛てのラブレターだ。

勝手に読むのも悪いので、トランクのサイドポケットに滑り込ませて、タクシーに乗り込んだ。

見慣れた景色は、しっかりと目に焼き付ける必要がないくらいに目の前に浮かんで。この街がどんなに、変化しても忘れない自信があった。

アイツは家の前で、自転車を触っていた。シルバーの、新しい通学自転車らしい。

ゆっくりと通りすぎるタクシーと私。

アイツがこちらを向いた瞬間に、窓越しに目が合った気がした。

私の『Like』は『Love』になり損ねた。それでも、『好き』には変わりがない。

タクシーが次の交差点を曲がるまで、私はアイツの家をじっと見ていた。

景色は移り変わる。私の生きた、この街の景色が、私のこれから生きていく街に変化する。

ふと気になって、サイドポケットから海鈴宛ての手紙を取り出すと、送り主は、アヤちゃんではなくケンタ君の丸っこい文字だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3651b/>

ライク

2010年12月13日17時03分発行